

## 【基調報告】

「長崎の文化ボランティアのあゆみ ～長崎・居留地地区の取り組み～」

一般社団法人 ナガサキベイデザインセンター 代表理事

梅元 建治氏

今日お集まりの皆さまは、文化ボランティア、または街づくりや、ガイドとか、そういうことをされている方々と聞いております。事前に私も打ち合わせをさせていただき、皆さんに少しでもお役に立てればと思い、自分の活動等についての資料を作ってきましたので、お話をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

これからの話は長崎全般の話もちろん致しますが、先ず私が生まれ育ったところですが、プロフィールにありますように長崎の大浦というところですよ。

大浦は、福岡の皆さんだったら多分修学旅行とかで行かれたことがあるかと思いますが、グラバー園や大浦天主堂等があるところで、そこで生まれ育ちました。

大学卒業後福岡でしばらく仕事をしていましたが、父が亡くなり長崎に帰りました。実は父が水産加工場の経営をしていたため、現在そこの専務で、弟が社長をしています。会社を経営する傍ら、まちづくりやデザイン等の地域活動などに関わり、その後法人化して現在一般社団法人という形で今やっています。

今日は「次なる一歩へ」ということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。やはり地域の皆さんが、やりがいのある楽しい文化・芸術分野の運営やボランティア活動をどうやって実現していくか、また活動をコーディネートできる体制づくりや人材育成を進め、文化・芸術を通じた地域内外の交流を促進するために「次なる一歩へ」どう踏み出すか、ということが今日のフォーラムのテーマかなと思っています。

皆さん、質問ですけど、楽しく活動されていますか？楽しいですか？ああよかったです。これで手が挙がらなかったらどうしようかなと心配でしたが、よかったです。

実は、私も楽しく活動させていただいています。私事です先ほども少しお話ししましたように、生まれ育った街は長崎です。新しい出会いを頂いたところが福岡で、私にとって福岡は第二のふるさとになりました。その当時私が通っていた大学の、今はもう亡くなられた先生のことです。これは最後までキーワードとして皆さん覚えていただきたいと思います。

環境デザインに取り組まれたその恩師の言葉に、「コトのデザインができないやつに、モノのデザインができるかっ！」という言葉がありました。

丁度僕が通っていた環境デザイン・環境設計学科というところで、その先生がいつもおっしゃっていたのは、やっぱりイベントなど、このフォーラムもそうですが、「こういうものを取り仕切ることが出来ない人は、形になるものはなかなか表現できないよ」ということです。

このような私ですが、歴史も含めた文化と多くの課題に日々囲まれながら活動しています。

長崎のことを少し調べてみました。皆さんの中にも、法人の資格をお持ちの方、そうでない方いらっしゃると思いますが、長崎県がどういう状態かと言いますと、

ボランティア団体・NPO法人・市民活動団体の総数が、平成の合併で今13市8町ですが、約2,883団体あるそうです。そのうち、皆さんと同じように主な活動分野で学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る、スポーツは皆さん関係ないかもしれませんが、こういう団体が553団体有ります。この数字ですが、福岡は3倍ぐらいあるようです。

長崎はこのレベルです。そのうち NPO 法人格をもっているところが 453 団体です。

昨年度、長崎県の県民ボランティア活動支援センターが実態調査をしました。

活動の特徴が少し書いてありまして、皆さんと共有したいと思いますが、恐らく福岡と少し傾向が違うかも知れません。協働事業が後発な県の特徴的なものが出ていると思います。

主たる活動事業、全体の約 5 割とありますが、大体 NPO 法人の 5 割は障がい者自立支援事業と他の福祉事業に取り組む法人です。それ以外の 5 割の中でいろいろな分野を分け合っている感じです。

活動頻度も週 5 回程度が最も多いようですが、実はそれは福祉・介護そのあたりの法人の活動頻度が高いことに起因し、それ以外では月に数回が最も多いようです。

活動拠点については、介護保険事業・障がい者自立支援事業に取り組む法人は事務所がないとダメだということなので、約 4 割は事務所があります。まちづくりとか、他のこういう文化活動をやっている分野では案外その拠点を持っていないのが長崎の現状です。

スタッフの給与ですが、やはり障がい者、または福祉事業をやっているところは一人当たり年 300 万円以上の支出しているところもあります。他の NPO 法人の雇用吸収力は小規模です。ただここに少しヒントがありまして、この他のこういう文化団体の中でも子供の健全育成事業とか、観光振興が絡むところは、やはり委託事業が行政から出てくるので、少し給与の差がある感じです。

会員構成については、介護保険事業・障がい者自立支援事業の団体では個人正会員が 10～19 名が 5 割と、それ以外の団体では団体正会員、個人、団体賛助会員 0～9 名の団体が大半というふうに規模が違います。

財政状況もそうなのですが二極化しています。財政規模が大きいのは、これはいろんな補助金とか国の制度も含めた介護保険事業・障がい者自立支援事業・子供の健全育成・観光振興を図る活動に取り組んでいる団体は事業面で行政との関係が深い法人です。というのは恐らくもともと社団法人だった観光協会が、今 NPO 法人化しているのでこうなっているのではないかと思います。実はそれ以外の部分、団体はやはり小規模、かつ寄付金の受け入れをしてない法人が 25%あるということでした。

あともう一つ、こういう団体が情報の公開をどうしているかということですが、公開はホームページでやっています。情報を得るやり方はどうしているかと聞くと、ホームページやデジタルとかいろいろ広く全国から集めるやり方ではなく、案外こういうシンポジウムに来てチラシを配るとかデジタルじゃなくて、「フェイス トゥ フェイス」でやっている傾向が小規模の団体では見受けられます。

次に協働についてです。

このフォーラムのテーマにもなっていますが、行政（自治体）とどうやって協働しているのかという話ですが、長崎の場合は協働の実績は殆どのところがありました。ただそういった委託事業とか運営に関する協働かというところではなくて、このようなフォーラムを催したり、行政のやることに対していろいろお手伝いをするという感じでした。

あともう一つ、行政との協働だけではなく、他の団体との協働はどうですかという質問に対しては増加傾向で、やはり自分達の中にあるノウハウや資源ではなかなかやれない場合、それができる人も含めた、違う団体と協働して取り組んで行こうかという意識がありました。それと活動する上での課題は、後ほどまた出てきますがこの調査報告書の中では、大半の団体が活動資金や人員の量や質に課題を抱えていながらも、やはり活動の拡大意向

を有し、行政の皆さん、もう少し支援して頂けませんか、ということになっています。

そこで僕の街はどんなことやっているのかということですが。

(映像写真で説明)

これが長崎です、全然福岡と景色が違います。コンパクトで今長崎市の人口は44万人です。福岡が150万ぐらいですか。長崎は九州の県庁所在地の中で唯一人口が減っているところです。人口統計がでていまして、今10年の後期計画を作っていますが、人口33万人と減る見込みです。これを「もう少し真面目にやろうよ」ということで今計画を見直していますが、実は、長崎は今まちづくりというバブルが来ているような感じです。県庁舎の作り替えや、新幹線の整備など。丁度ここにあるのが大浦天主堂裏から見たところです。港があって、丁度そこに外国船がポツンと着く入江があります。この後ろが大浦小学校です。

今PTA会長をしまして、この大浦地区は風光明媚で歴史的な資産があるところです。実は9年前に3つの小学校が合併しました。長崎市では2番目に合併した地区で、人口減少が著しい地区です。ですがこうやって見ると、「何だか雰囲気がいいね」という感じが、実はこの後ろ側は斜面地で、空き家とか空き地が多く出現しています。

今新三大夜景と言われていますが、夜景をよく見ると、殆ど街路灯や、道路灯とか、人が住んでいる灯りじゃないのに、長崎は新三大夜景、世界三大夜景とか言われています。人の営みとしては少し不向きかとも思われる状況で、これも課題の一つとなっています。

私も会社を経営してまして会社の組織もそうですし、皆さんの団体もそうだと思うのですが、組織で活動するときの主な課題として、「**実践すればするほど一部の人に負担がかかるようになってはいないか**」に行き当たります。

理事長とか会長や事務局長が一番忙しくて、一般会員の人はこういうイベントの時手伝ってくれる、そのように一部の人に負担がかかり過ぎているんじゃないか、と心配します。

もう一つ、「**その組織がやっていることを維持していくためのマネージメント(人・モノ・カネ・トキ)**はどうすべきか」も課題です。

それと外部の人にどうやって参加を呼びかけていくか、また会員さんとか、地元の人たちといろいろなコミュニケーションをとるために、どんな工夫があるのか、というのも課題じゃないかなと思います。

この「持続可能な活動をする」項目ですが、やはり人・モノ・カネ・トキ、組織を維持するためにはこれが一番根本になるのです。皆さんどこかで直面されたのではないかなと思います。皆さん如何ですか？こんな事クリアしており、「全然ありませんよ」という方いらっしゃいますか？ いらっしゃったら僕も是非お友達になりたいと思います。

今日お伝えしたいことは、私が地域ボランティアで活動する時に大切にしていることで「**人をつなぐこと、地域資源を活かすこと、それと関わる場所をつくっていくこと**」です。

皆さんそれぞれの地域で活躍され拠点をお持ちのことと思います。

私はどちらかと言えば地域にどういう資源があるのか、ということを決く大事にしたいなという思いがあります。それは応援してくれる人もその場所に暮らしていますし、また行政もその地域を何とか活性化しようということで、今そこにある**地域資源**とは何だろうか、その為に**どういう人たちがそこに関わってくれているのか**、またその**仕組みをどうつくっていくのか**ということを考えています。この三つのことはやはり私にとっても大切なことだと思っています。

今私は長崎で地域活動をいろいろやっていますが離島にも行っています。最近ふるさと

納税で有名になった平戸市や、五島市とか離島に行きますが、離島でもやはり一番大事なものはこの三つの様な気がします。

僕が今重点的に関わらせて頂いているのが、地域コミュニティーを再構築する行政のお手伝いで、石破大臣が提唱し国の事業である、ふるさと創生事業です。

離島地域でやっているのが実は、地域コミュニティーを再編するそこを重点的にお手伝いしています。

皆さんのアンケートの結果からみても、上位にきているのが、「組織の資質を高めるためにはどうしたらいいのか」「誰がボランティア活動を担い続けていくのか」「ボランティアを楽しむとはどういうことか」。あと「ボランティアと行政に溝はあるか」活動と行政ですね。これを今日はこのフォーラムで先ほどの3つのことに考え直すときのキーワード、というのはやはり、例えば、新しくしていくと言いましたけれども、それはやはり「**何かと何かを繋ぎ合わせるイノベーション**」と、「**何回も何回もやり続けてちょっと失敗して、またやり直すというトライアンドエラー**」というのがこのボランティアの活動では大事なことで、それを実践していくことが大切なことだと思っています。

もう一つは今日ここに参加されている皆さんは運営側というか、組織の中でも一般会員というよりも、どちらかと言えばマネジメントしている方々と思うので、会長さんとか事務局長や、理事長さん達が日頃やられていることは、「**周りの皆さんを元気にして、出番をつくる**」そういうことをしなければならないと思います。その為には仕組みをどうつくっていくのか、もう1回考え直す必要があるのではないのでしょうか。

文化芸術によるまちづくりということを書いておりますが、やはりまちづくりのために文化芸術を捉え直すという事はとても大事な視点じゃないかと思えます。

さきほどの「コトのデザインができないやつに、モノのデザインができるか」というあの先生です。僕が大学に通っていた十数年前いつも言われていたことは、「今からは、文化芸術が無いまちは食っていけないぞ」と。

当時は行政も文化芸術が飯の種になるなんてこれっぽっちも思っていなくて、観光とその文化芸術分野はちょっと離れていて「これからは歴史・文化・芸術が育たないまちは、食っていけないようになるだろうな」これが「飯の種だぞ」みたいなことを言っていました。ようやく今その入り口に入りかけているのかな、それを支えるのがこの文化ボランティアの皆さんであるし、またそれを認識される行政の皆さんでもあります。

そのためにやはり環境、まあ一般の人たちを巻き込んだ環境をどう形にしていくかというのがこの **DO SIGN = DESIGN** です。

地域資源というのは、もちろん皆さんを始め、山や川などの自然環境とか、遺跡・神社・教会等歴史的なもの、農・水産物、菓子や工芸品等の特産品もそうですし、後ほど話にあがりますが、地域の人が継承してきた風習や祭り伝統芸能、またそれらを育んできた生活も立派な地域資源です。

僕の街、写真で見て頂こうと思いますが。これは私が事務局長をしている今年の居留地祭りです。行政がやっていたときは年間、2日間のイベントに600万円使っていました。600万円、2日間のイベントですよ。

実はですね。皆さんランタンフェスティバルって聞いたことありますか？

ランタンフェスティバル、なんかこうわーっと提灯だらけの、福岡でも大人気でありがたいことですが、このランタンフェスティバルは華僑のみなさんが始めたものです。それとゴールデンウィークの頃に帆船祭りがあります。この2つが長崎の二大祭り、(伝統

的な祭り「おくんち」もありますが)とされています。

この二大祭り、長崎市の行政が主体のイベントですが、いくら掛かっていると思いますか？このお祭りの予算を見たとき、あまり大きな声では言えないのですが、なんと 6,000 万？と思いました。

何に使われているかと言うと、そのほとんどが情報発信です。

長崎はイベントの情報発信に 6,000 万円台のお金を使っているのです。これでもお金が足りなくて東京とかには発信できないのです。九州エリアが中心になります。だから案外ランタンフェスティバルとか九州の方々は知っているのですが、関西や、関東には知られていません。そうなるとうとうということが起きるかという、10年ぐらいすると飽きられてきます。そういう状態です。

僕らのお祭りですけども、実は今行政から頂いているお金は50万円です。11年前、私が事務局長時に600万あった予算が、11分の1になりました。このお祭りも今年で20年目になります。丁度、帆船まつりとかランタン祭りも20周年で、向こうは100万人弱の動員です。20回です。僕らのお祭りでは2日間で2万人、丁度夏休みも終わって“おくんち”迄の狭間、9月ですからあまり人が多く無い時期ですが、それでも2万人です。

今、お見せしている居留地まつりのポスターは祭りの最中に、スケッチ大会をやっているところです。

前年度やったスケッチ大会の最優秀作品をポスターの表紙に使うのです。こんなことやっているお祭りってこれ以外長崎にはありません。普通は業者に発注して表紙プレゼンテーションで一番いい感じのものを選ぶのですが、我々は手作りでこういうことをやります。そのお祭り、どんな祭りかといいますと、お金も無いステージもありません。ポスター、チラシで40万円ぐらい使ってしまう。いただいた50万円のうち10万円ぐらいが何にでも使えるお金となりますが、実際お祭りをやりますと160万円位掛かりますから後の110万円は自分達で何とか稼がねばなりません。

どうするかという、このポスターだけではなくこういう旗等は経費が掛からないよう自分達で取り着けます。あと会場ですが全日空ホテルやグラバー園の近くにあるオランダ坂です。

それと、ばかばかしいと思えるような馬鹿げたイベントほど人が集まります。なにが馬鹿げているかといいますと、オランダ坂の駆けあがり大会です。ここだと会場費はゼロです。警察への申請費だけです。

この映像は、おまつりの旗を設置している男の子、カープの帽子をかぶっていますね。「長崎人は平和とのつながりで広島を応援しなさい」パリーグは絶対ソフトバンクですけど「セントラルリーグはカープにしなさい」などで、大人も子供も総動員で準備も片づけも、みんなに役割をつくるのです。

このような馬鹿げたイベント、場所を使ったイベントには人が集まります。皆さんもそういう事を考えてみてください。写真の奥にある川、あれでも実際、僕らからすると溝みたいなものですが、川を見たときに我が家の子供はしゃぎだします。

まあそういう地域性を活かしてそれぞれの文化活動を繋げていく、このオランダ坂駆け上がりも、ただ走るだけじゃなくて走って行った先に鐘を用意しています。その鐘を鳴らすのです。「あの鐘を鳴らすのはあなた」みたいに。

丁度この映像は長崎入港の観光船です。この船13万トンですが、何人位乗っていると

思いますか。客室乗務員もいれると5,000人余りで、その5,000人がどっと出てくるのです。

博多埠頭だったらバスにそのまま乗って近くのラオックスやら商業施設に行くのでしょう。長崎の場合、皆歩いて行くのです。もう中国の町みたいなもので、結局薬品や化粧品とかの買い物に行くのでしょうか。

馬鹿なイベントの続きですが、居留地に一番多く住んでいたのが中国人で、ここに孔子廟というところがあります。先ほどの船が着いたところから歩いて5分くらいですけども、そこで何をやっているか、赤ちゃんハイハイレースです。

この赤ちゃんハイハイレースに、赤ちゃん一人出るとしたら何人の大人がついてくると思いますか。一人の赤ちゃんに、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん……。この赤ちゃんにはおねえちゃんも来ていますから、5人ぐらいついてきています。そして参加費はただ、赤ちゃんの入場料もただ、でも大人は有料です。だから施設運営者は喜んでくれてこの施設はいつでも使えるようになりました。そして団体割もしてもらえます。僕らがポスターを作って呼びかけ、一生のうちでハイハイしている時って短く、もう今しかありません。しかも学問の神様、孔子さんが祀られています。だからひょっとしたら大事なわが子わが孫は賢くなるかもしれないですよ、という話をすると子供を持ったお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん・皆さんお出でになります。

ここで面白いのは、報道とかテレビも入っていますが、おじいちゃん達を眺めているのが一番面白いのです。親ばかりと申しては失礼ですが、おじいちゃんおばあちゃん達が自分の子供、孫達を、どんなに溺愛しているかというのを見るのが楽しいです。

この映像はうちの娘が小学校の時立ち上げた「居留地キッズコーラス」という合唱隊です。ステージを借りるお金がないので、毎年毎年使い回しでこの赤いカーペットを通路にテープで張ってステージを造っているところです。

例えばここ福岡だったら、市役所前で物産展か何かのイベントをやっているとしましょう。イベント終わり時になってどこかの大きなイベント屋さんに、「すみません、このカーペット頂けませんか」「あ〜いいよ、使ってください」というような感じで頂いたものです。

こういう風にやっていると、お金は要りません。

実は年に1回だけのこのバザー、公道を通行止めにして行います。皆さんお手元の資料で地図が書いてあるのをご覧下さい。まつりのチラシですね。これは当日、直前に配るチラシです。この表と裏にちょっと工夫があるのです。

表はこの場所でこのようなイベントが二日間開催されていることを載せているのですが、丁度真ん中あたりに「バザーもあるよ」ということで太く書かれているところは歩行者天国です。ここはシルバーウィークであろうと、どんなに観光客が来ようと、警察の皆さんと日頃の地域活動を通じて横断歩道での立哨や交通安全活動でコネクションが既にありまして、「また梅元さんやるのでしょうか」、「えー、やります」「許可出してください」凄く渋滞するのですが、「ごめんなさい」と言ってやっています。

最近、船を造っている外国人とか、またそこに住んでいる外国人達が九州の友達を呼んで一緒にわいわいわいわいがやがや飲んだり食べたりして賑やかに楽しんでいます。

どこの国ですかという感じですが、今では、若い人も来るようになりました。

前は自治体の主催でしたが、お金がなくなったとたん自治体の関係者が皆手を引きまして私達がやるしかないだろう、ということで今やっています。バザーの出店は広く募集せず自分達が来て貰いたいところを1本釣りします。

長崎の文化ボランティアでとても大事な取り組みの一つに「長崎さるく」というまち歩きガイドがあります。このイベントは長崎の文化ボランティアにとって成功した例です。「長崎さるく」のガイドを経験された方どれくらいいらっしゃいますか？あ、ありがとうございます。

実は僕も市民プロデューサーとして今も参加していますけれども、桐野さんといって、今も代表をされており居留地まつりの実行委員長でもあるし、後ほど出てくる合唱団の団長でもあります。仕事は何やっているのか、といえばこの方は呉服屋さんで、普段は市民活動や歴史と文化を活かした活動を目いっぱいやっておられます。僕も後輩なので一生懸命背中を追いかけてやらせて頂いています。

この写真は活水大学、東山手町のところを、まち歩きガイドをしているところです。

先ほどちょっと活動の資金をどうするかと言いました。

160万円位かかるが、行政からは50万円ぐらいしか出ないので、残りの110万円をどうするかということですが、一般的には寄付を募ります。

寄付は、企業がだいぶ厳しくなっているので貰えるところと貰えないところがあります。特にお金で貰うということは大変厳しくなっているかと思います。

そこで僕が今年から一口1,000円で個人の協賛を募っています。

もう1つはこのエコバッグです。The Nagasaki Foreign Settlement 英語でデザインしたのですが、ちょっと有名なデザイナーにお願いしてデザインしたものです。売ります。お祭り期間の1ヶ月前から1,000円で売ります。これ作るのは大体500円ぐらいで作れますので、約半分の500円が収入です。その収入がそのイベントの運営費になりますし、Tシャツも同じデザインになっていますがスタッフ用ではなくて、美術館や市役所で販売しています。一番のお客様は、実は市役所、あと県庁です。先ほどの紹介した授産施設でこの袋詰めをやって頂いて、そこでも販売していただきその収益でお祭りをやっているのがうちのやり方です。

それに企業はなかなかお金を寄付してくれなくなったので、少し宣伝させて貰えませんかといって、例えばキリンビールだったら、長崎はキリンビール発祥の地ですけども、ビールくださいとか、あとサントリーにジュースくださいとか、ホテルには宿泊券を、そういうお願いをします。

それを何に使うかと言いますと、実はこのバッグを買ってもらって、二日目のエンディングのイベントで大抽選会をやります。その抽選会に来た人だけにしか当たらない半券がありますが、それを抽選箱に入れてもらって、ここでものを買ってくれた人と、普段交通費や食費等も無いボランティアをしてくれた人を対象に、一等5万円のJTBのチケット、これだけは自分のところで買うのですが、その他ホテル宿泊券とかビールとか当たります。そして貰った協賛品を全部出すというイベントを最後にします。

それが歌を唱ったり、旗づくりなどいろいろ協力してくれたボランティアに対しての報酬なのです。最初はそのような事で来てくれるのかなと思いましたが、意外や意外、結構いろいろなものが当たるので、毎年それが楽しみになって、「じゃあ自分もある時間を半日手伝いますよ」とか「二日間手伝いましょう」という方が多くなりました。

NPO法人とか組織内で年間通じて活動している人も、そういうイベントの時、1ヶ月間は自分の都合で参加できますとか、実はその抽選券のやりかたで、参加者が増えました。この写真は長崎まち歩きですが、来年十周年を迎えます、そのまち歩きも少しマンネリ化してきたところもあり、プログラムを見直そうと、今いろんな取り組みを検討していると

ころです。やはり10年経つと組織もそうですがちょっと陳腐化したり、古くなったり、今やっている次の世代をどうやってつくっていくかそんなことを考えています。

これは小学校の子供達6年生ですが、先日、小学校の隣にあるグラバー邸がこの間、九州山口の近代化遺産で世界遺産に登録されました。大牟田にある大正小学校の子供達が修学旅行で私たちのエリアに来ました、他のところからも沢山くるのですが、その校長先生がエージェントと企画されて、ぜひ小学校同士で交流させてくださいということで、大正小学校の子供達が私たちの小学校を訪ねてきました。僕も行きました。子供たちのガイドが大正小学校の子供達を案内しているところです

今「朝がきた」という福岡の炭鉱をモデルにした素晴らしいNHKの朝ドラをやっていますが、大牟田は残念ながら廃鉱となりました。

その大牟田の校長先生との話の中で、印象的で僕が今も忘れられないのが「炭鉱の火は消えども、教育の火は消さぬ」という大牟田の教育方針です。凄くないですか？

我々にそんな危機感があるのだろうか、やはり大牟田の精神力を学びたいという先生方の意向で、今度は私共の小学校が大正小学校を来月訪問することになりました。やはり次の世代を育成しながら次の世代同士を交流させていく事も大事な視点だと思います。PTAの経費や、祭りの収益を使ってでもやらねば・・・と、取組を始めたいと思っています。

この映像は軍艦島です。世界遺産に数回候補になり、「軍艦島を世界遺産にする会」の坂本さん初め皆さんの努力により実現しました。この3月も上陸の予約は一杯だそうです。

この写真は大浦天主堂の前で「長崎さるく」をしている様子です。

函館、横浜、新潟、神戸、長崎、幕末の安政年間に開港した都市でつくる「開港5都市会議」の方達と交流しています。今日は私達のご案内しているところです。

これは居留地祭りの一つ、大浦天主堂前での写真です。相変わらず予算がないので例の赤いカーペットを敷き、工事用の脚立を利用、ライトアップも準備して雰囲気醸し出し、オペラ・アリアを上演中です。周りには500人あまりの観客です。

このような文化的なものも人の心を動かすのではないかとの思いです。

ここには300人ぐらいの人です。月夜の孔子廟でトゥーランドット「誰も寝てはならぬ」を上演しました。トリノオリンピックで荒川静香さんが金メダルを取った時の曲です。

何でこの曲かといえば、これは中国のお姫様の話で、それを中国の建物の後ろでやる、しかも長崎が舞台となった縁の「マダムバタフライ」と「トゥーランドット」何れも作曲はプッチーニです。東山手のこの丘を舞台にして表現しよう、ということでこの会場となりました。いつもお世話になっている場所で快くOK頂きました。このように国宝でも、文化財であっても交渉して舞台にしています。お金はないけどどこにも負けない地域資源があると信じて。

これは居留地男性合唱団ですが女子部、コーラス部、キッズコーラス部など100人余りいます。日頃の運営だけでなく表現すること、ミュージックフェスティバルのようなソフト事業をやろうとここ数年取り組んでいます。

これは去年のエコバッグです。長崎居留地(Nagasaki Foreign Settlement)の頭文字NとS真ん中に十字架の協会がデザインされています。これはN極とS極が二つになると新しい風が吹くことを意味しています。これが今Tシャツになったり

バッグになったりして、デザインされたものがメディアにのって拡がっています。

この写真はクリスマスに向けて、児童公園をイルミネーションで飾ってみました。寄付金を基にしましたが、協賛して頂いた方には12月24日にポストカードを届けました。協力頂いた事に対して必ずお礼をする。これを続けていくと持続可能な環境が出来ると思います。

酒屋の裏の倉庫を改装してたまり場としてのバーをつくり、「男同士が集まれば歌もいいし馬鹿げたこともいいけど、やはり飲もうぜ！」ということになります。九州男児は自分達のことを“おいどん”ということからバーの看板は「大井呑」としました。私たちの活動とは関係ないのかもしれませんが、小さな仕掛けの積み重ねで長崎への観光客は増えつつけているようです。

今私どものナガサキベイデザインセンターは、地域をもう一度見直すための地域デザイン事業を考え実行しています。東京で自分たちの活動を発表したり、このようなフォーラムを開催したり、東京のデザインを学んだり、博多の人の協力を得て博多「町家」など参考になるものを取り入れて繋げるなどのコミュニケーション事業、その他ブランディング事業として、この写真は大河ドラマ「龍馬伝」に因んで亀山社中再生のポスターも作りました。また地元でビワの産地茂木というところがあり、そのビワを使った特産物、枇杷ネクターをリニューアルして流通させました。今年はJR九州が御中元カタログに入れてくれたので、かなりの量を販売しました。この様な事を地元の農家の人達と一緒にやって地域資源を活用しています。

シビックプライドという言葉、初めて聞いたという方？・・・町の誇りを顕在化することです。有名なのは「I ♥ New York」 私はニューヨークが好きよ。だから地下鉄に落書きしないで！というキャンペーンで、ジュリアーノ市長の発案だそうです。

アムステルダムでも「I am ster dam」私がアムステルダムです。と言って10年、成功しています。

私が今長崎で仕掛けているのは、NAGASAKIには母音はAとIしかありません。即ち愛しかない。バッジやTシャツやいろいろなものに取り入れています。自分達の町を形で表現することは、人を集めたり発信する時など大事なことだと思います。是非皆さんの活動に何かを組み立てて形にして、それを工夫して繋げていくというデザイン指向の考え方を取り入れたらいいと思います。

我が家の娘が中学の吹奏楽部の部長となり、なぜか私も保護者の部長をする羽目になりました。吹奏楽部は凄くお金が掛かります。PTAの予算が年150万円ぐらいなのに吹奏楽部は300万円余り掛ります。このお金をどうするか、一般的には定期演奏のチケットを販売、協賛依頼をする、などいろいろありますが、私が部長になって地域カレンダーを作りました。それはアメリカのマーチングバンドの活動がお手本でした。

日本はすぐ商店街や企業に寄付をください、協賛してくださいとなりますが、アメリカの寄付は役に立つものを生徒がつくって販売するのです。買ってください、応援してくださいと。地域でやっている行事全てに持っていき販売しました。これを1冊500円で販売して運営費に当てました。買っていただいた方には定期演奏会への招待状を差し上げました。

最後に本日のテーマである“次なる1歩へ！”のために、冒頭に申し上げたようにまずはそれぞれの理事、事務局長の皆さんが、支えてくれるサポーターの方々への一人一人の役割を作るというところから始まって、地域資源を活かした持続可能な文化的な地域づくりという表現をしましたが、やはり内と外の資源を何かに使えないか、あまり使われていない建物が

あつたら光を当てると会場になるのではないか、そんな自分達の足元にある**地域資源を最大限活用**すること。また一方的に発信するのではなく**双方向に情報のやり取りを幅広く**やっていくことが大切だと思います。

もう一つポイントは、安定した収入源や活費を確保するというために少額でもいいから**多様な収入源を確保**するということが大事だと思います。行政の補助金にだけ頼ったり巨額な寄付をしてくれるスポンサーからの収益は一見安定したように見えますが、そこが撤退した時にとつともないダメージを被ってしまうので、日常の活動から広く市民に支持してもらえらるような信頼関係からの収益があるといいように思えます。

もう一つ付け加えて、本日のフォーラム、このような催しに参加してみようという姿勢が、実はとても大事なことで**学び続けること探求し続けること**、所謂知識とコラボレーションというのが常にイノベーションを発達させていくと言われていいますので、学び続ける、探求し続けるという視点はとても大事なことだと思います。

少々雑駁なお話になって申し訳ありません。皆様の活動がますます発展されますことを祈念申し上げて私からの活動報告にかえさせていただきます。

ご清聴有難うございました。